

令和3年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

		課題番号	20352115
研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な確保のための国際市場に関する研究」		
委託研究課題名	北米地域における日系商社の穀物フードチェーンと日本の穀物実需産業に関する研究		
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）		
中核機関・研究総括者	東京農業大学 堀田和彦		

1 研究の進捗状況等

研究項目ごとに文献・統計データの収集及び分析、業界団体や企業へのヒアリング調査、消費者へのアンケート調査を実施した。2021年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、アメリカ、カナダだけでなく日本国内についても現地調査は困難となったが、その代替として文献・統計分析に注力するとともに、ZOOM等を利用したオンライン調査で対応した。また、必要に応じて委託側・政策研側共同で調査を行うとともに、意見交換や情報交換を行う研究会を実施した。

① 日本における穀物の実需産業と中国の穀物需給の分析

飼料原料を扱う商社及び配合飼料メーカーに聞き取り調査を行い、企業の事業戦略や産業全体の課題について明らかにした。また、ブロイラー養鶏経営や肉牛・酪農経営における飼料利用、産地の動向等について、統計分析や業界団体、経営体への調査に加え、日本の畜産物に対する消費者アンケートを実施した。中国については、文献や統計資料をもとにトウモロコシの需給変動要因を分析した。

② 日本の穀物貿易フローと日系商社による穀物フードチェーンの分析

CMS分析(constant market share analysis)により、2000年代～2010年代の世界トウモロコシ貿易フローの変動を検討した。また、業界誌・統計分析および日系商社への聞き取り調査に基づき、日系商社の北米における穀物調達行動について分析を行った。

③ アメリカの穀物産業構造及び関連政策に関する分析

2010年代アメリカ穀物産業構造の国内外研究の到達点を把握するとともに、穀物への価格所得支持プログラムの動向についてUSDA統計・情報から把握し、実質的な「ダンピング」がどの程度か等を分析した。また、穀物企業・エレベーターリストについて企業別に集計し、2000年との比較を行なって重要なファクトファインディングを得た。

④ カナダの穀物産業構造及び関連政策に関する分析

2021 年度におけるカナダの穀物・油糧種子の生産・加工・輸出・価格について検討した。穀物の主産地である平原諸州の生産減少や、小麦やキャノーラの輸出減少、需給の逼迫による価格高騰の動きを整理するとともに、その影響を明らかにした。